

## マンガを活用した文法確認

### GRAMMAIRE AVEC YOTSUBA !

#### - utilisation de la version française du manga -

**KASUYA Yuichi**

Université de Kanazawa

[kasuya@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:kasuya@kenroku.kanazawa-u.ac.jp)

#### 0. 最初に

日常生活の自然なシチュエーションのなかで筋が展開するマンガ作品は、フランス語教育のために有効に活用することができます。とくにいわゆる「まったり系」マンガの傑作、あずまきよひこの『よつばと！』および『あずまんが大王』等で日本語原典にフランス語訳を対照させて用いると、日本語話者の日常における自然な発話にかなり忠実に対応するフランス語表現が得られると考えられ、学習者は本物の気持ちをこめたコミュニケーションに近づく感覚を持つように思われます。

以下では金沢大学文系2年生以上の「読み・書き」のクラスでの実践をご紹介します、これをある程度の網羅性、完結性をもった文法確認の授業にしたてていく方向性をご提案します。

なお文法項目別に分類したデータは、ご希望があればお送りしたく思いますのでメールでご連絡ください。

#### 1. 授業の概要

対象は金沢大学人文社会学域(文系の各学類を学域という名のもとにまとめている)2年生以上。多数を占めるのが3年前新設された「国際学類」の学生です。この学類はまだ卒業生を出しておらず学類の性格が完全に定まっているとは言えませんが、少なくとも文学的モチベーションは希薄ながら学生たちの興味は広範囲にわたります。国際的な場での活躍を志向する学生の中からモデルとなる人材が多く輩出することが期待されています。

授業はひとコマ90分。そのうちほぼ30分を「書く」の時間として『よつばと！』にあてています(ちなみに残り60分では「読む」の時間として*Infos*(駿河台出版社)、*Les Clés de l'actualité*(既に廃刊)などの適当な記事の読解を行っています)。そこでいくつかのフレーズを選び学び手にフランス語にしてもらい、それを市販のフランス語訳(tr. Eve Chauviré, Editions Kurokawa)と照らし合わせることにより、ある種の日本語の表現とそれにもっとも適合するフランス語表現との文構造の類似と

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

差異を知り、文化の違いを実感し、同時に実例のなかで文法を確認していくことを目指しています。

あずまきよひこの「まったり系」作品においては、大きな出来事が起こらず、日常のシチュエーションの中で日常的ギャクが展開されます。主人公は多くの人の共感を誘うキャラクターです(内容にはオタク的あるいは性的な要素も欠けてはいないと考えられますが、本稿ではそれには触れません)。

### 2. 文法確認

『よつばと!』の日本語を仏訳したものを市販のフランス語訳と見比べるだけでも授業の意義はあると考えられますが、授業の達成目標を明確に表現できるようにするためにも、実例のなかで文法事項を適切に再確認していくやり方を志向したく思います。

そこでまず注目しなければならないのは、日本語と大きく違う様相をみせる「動詞の法と時制」だと考えました。以下はまだまとめる途中の不完全なものですが、『よつばと!』中の実例からみた動詞の法と時制の用法の確認です。

### 3. 条件法

初級文法では多くの場合、条件法は「Si 直説法半過去、条件法現在」「Si 直説法大過去、条件法過去」という構成で「事実と反する仮定とその帰結」をあらわすという説明がなされますがこのやり方には不適切なところがあるかもしれません。あずまきよひこの作品における文例を集めて吟味した結果からも推測、不確実の意味をもったり語調を緩和するために用いられる例が圧倒的に多いので、条件法の最初の学習はそういう例から入るべきであるように思われるからです。また、まだ実践はしていませんが教育的には直説法の文とその主節動詞を条件法に置きなおした文を併置して学生に提示するのも、語調緩和等のニュアンスをより意識させることになり効果的かもしれないと考えてます。

以下に文脈と条件法におかれた動詞を含む文例をいくつかあげ、仏語訳と日本語原文を対照します。

○よつばとと一ちゃん(小岩井さん)は新しい家に引っ越してきました。お隣に住む娘さん、風香が小岩井家にやってきましたが、小岩井さんは自分がパンツ一丁なのを気にします:

Je ferais mieux de m'habiller, hein. Yotsuba& I, p.124 (以下 Yotsuba&は巻号だけローマ数字で表します) < Je fais mieux de m'habiller. < faire 俺は服着た方が良いですね?

○おととい干した洗濯物を取り込んでなかったという小岩井さんに向かって隣家の娘、風香が:

Vous devriez être plus sérieux! Hein? I, p.214 < Vous devez être plus sérieux. < devoir しっかりして下さいよー

○「ジャンボ」という大きな人の話を聞かされていた「みうら」はまだ彼に会った

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

ことがなかったが、非常に大きな人を見かけて：

-- Dites, ce Jumbo, ce serait pas lui par hasard ? II, p.24 < ce [n']est pas lui, par hasard ? < être

ひょっとしてジャンボってあれか？

○ケーキを選んでいるところで、風香の選んだケーキによつばがケチをつけて：

-- Pas terrible ! On dirait de la boue ! II, p.75 (× On dit...)

あんましたな ドロみたい

○大雨にうたれて喜んだよつばが風香ととーちゃんに：

Vous auriez dû venir ! I, p.223 < Vous avez dû venir. < devoir

ふーかもとーちゃんもくればよかったのにー

条件法過去ではおそらくこの vous auriez dû, j'aurais dû の形が日常会話ではいちばんよく出てくるのではないかと想像されます。

### 4. 大過去

大過去の用法について「過去の行為を改めて喚起する」「相手の非を咎める」「発話時の状態がもう過去と同じではないことを表す」「過去と発話時の間に距離を置く」の四種類を認める説を金沢大学文学部、山本伊津美氏がその卒業論文（2011年提出）で提唱していますが、筆者はむしろ過去にある種の「忘却期間」があることを暗示するところから「おまえは忘れているのか？」という意味が込められ、「非難」の意味が出てくるのではないかと考えます。日本語で「あ、忘れてました」とか「勘違いしてました」とか、今の瞬間に終わった状態を指したり、「持って帰っていた（けれど忘れていた）」「前に言ってあるはず（おまえは忘れているのか）」「以前それを見たことがあった（けれども思いだせない）」などのようにある行為がなされたり、ある状態が成立したりしてから相当時間が経過して、その間、その行為、その状態を意識しない時間、忘れていた時間があったことを示すのではないかと、ということです。

○あさぎからもらった「さーたーあんだぎー」を、よつばはポケットに入れたまま忘れていました。とーちゃんは洗濯のときそれをみつけてよつばに尋ねます。

C'est quoi, ça ? C'était dans ton pantalon.

Ah, j'avais oublié. III, p.5

なんだこれ？ よつばのズボンに入ってたぞ

あーーわすれてた

○とーちゃんとよつばがスチール製の巻尺を伸ばしていたら、急によつばが手を放して、巻尺が勢いよくケースに収まりました。手が触ったら確実に怪我をしていたのでとーちゃんが怒ります：

Mais je t'avais dit de ne pas lâcher !! Ça m'a fait peur !! I, p.122

だからはなすなって！！ 怖いんだから！

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

○とーちゃんの顔にマジックインキでいたずら描きをしたのを必死で消したいよつばが風香に相談するのですが、風香もマジックインキを消す方法を思い出せません：

-- Attends... J'avais vu ça à la télé... Un truc pour faire partir les taches... II, p.105

まって 前テレビで見た・・・ そういうの消す知識とか・・・

○ドアのベルが鳴ったのをきいて、よつばが：

Quand tu entends cette sonnerie, ça veut dire qu'on a une visite !

Ça doit être Jumbo ! Il avait dit qu'il passerait aujourd'hui. I, p.122

これが鳴ると人が来た合図だ

たぶんジャンボだ

今日来るって言ってたから

ここでは従属節が過去未来、主節が大過去になっています。ジャンボの予告を忘れていた時間の存在を暗示しているかもしれません。

○よつばの隣家の母と三人の娘がよつばたちの家族がよつばの出身地について語り合っています。

Ah, Yotsuba. Avant de venir vivre ici, elle habitait chez sa grand-mère. Et elle a dit qu'avant, elle habitait dans une île. II, p.187

あ よつばちゃん

よつばちゃん ここに来る前はおばーちゃんちにてねー その前は島にいたって言ってたよー

最後の文の動詞 *habiter* は、初級文法の知識からすれば大過去においてもよいように思われます。

○とーちゃんが自分を海に連れて行くと約束していたと思ったよつばが、それを否定するととーちゃんに泣き叫んで：

D'as dit qu'on dallait à la mer... D'avais dit qu'on dallait à la mer... V, p.152

[Tu as dit qu'on allait à la mer... Tu avais dit qu'on allait à la mer.]

うみいぐっていったー うみいぐっていったのにー (海行くって言った！ 海行くって言ったのにー)

この例では同じひとつのことを複合過去、大過去どちらを使っても表せるということが分かります。大過去の方は、その約束を忘れていたのかとなじる気持ちが感じられるように思います。

○ジャンボがテーブルに置いたコンビニの買い物の袋の中身をよつばが確かめません。

C'est quoi ça ? des souvenirs ? -- Ah, j'oubliais. IV, p.9

なんだこれ！？ おみやげ！？ おーそうだ！

この例は大過去になっていてもよさそうですが、袋が置かれてから、よつばの指摘でたしかにおみやげが入っていることにジャンボが気づくまでの間にほとんど時間的インターバルがないことからただの半過去になっている、ということがマンガ

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

の描写から読みとれるように思われます。

### 5. 接続法

初級教科書の例文の不自然さにはいつも違和感を覚えます。そういう例文に慣れてしまうと、接続法の活用形を正しく思いだすことに気をとられてしまって、当該の文脈においてフランス語としてもっとも自然で適切な構文を選べる能力を身につけることがおろそかになってしまう危険性があると思います。やはり接続法も、実際に良く出てくる構文で覚えた方がよいと考えます。

○よつばに「おとなりさん（の姉妹のなかで）きれいじゃないほうだ」と言われた風香が：

Dis, il faut que tu retiennes mon nom !! Je m'appelle Fûka ! I, p.70

ちゃんとお姉ちゃんの名前おぼえてよー 風香っていうの

○引っ越し時にテレビを譲ってもらえるというので、とーちゃんが：

Et là, on va chez la jolie fille Fûka pour qu'elle nous donne une télé. I, p.133

で 今からその美少女風香ちゃんちにテレビをもらいに行くのだ

○出しっぱなしの洗濯物を取りこむのを手伝ってあげようと、風香がよつばに：

Tu veux qu'on le fasse ensemble ? I, 208

一緒にやっただけようか？

### 6. 結論

その他「単純未来形」そして「代名動詞」「se faire INF構文」などなど、「動詞の法と時制」という枠を超える形でも多くの例を収集、吟味することができ、いくつかの例からは現実のシチュエーションにおけるあるカテゴリーの諸特徴についていろいろな示唆を受けることができます。残念ながら紙面の関係上、それらについての御報告は別の機会に譲ります。

現行のフランス語初級文法は網羅性を志向するためか、各々の用法の使用頻度、自然さなどをあまり考慮せずに提示するようにみえます。日本語マンガにおける表現とそれに対応するフランス語訳の例を蓄積し、吟味し、慣れることによって、学習者は文法のより自然な運用能力を養い、より自然な発話をすることが可能になっていくのではないかと考えます。